



令和5年11月28日

令和4年度学校保健統計（学校保健統計調査の結果）確定値を公表します。

文部科学省は、学校における幼児、児童及び生徒の発育及び健康の状態を明らかにすることを目的として、学校保健統計調査を昭和23年度より毎年実施しています。

このたび、令和4年度学校保健統計の確定値を取りまとめたので、公表します。

1. 調査内容

(1) 調査対象：国立、公立、私立の幼稚園、幼保連携型認定こども園、小学校、中学校、義務教育学校、中等教育学校、高等学校の満5歳から17歳までの幼児、児童及び生徒の一部（抽出調査）。

抽出率（発育状態）：全幼児、児童及び生徒の5.4%（695,600人）

（健康状態）：全幼児、児童及び生徒の24.8%（3,220,411人）

(2) 調査事項：学校保健安全法により実施される健康診断の結果に基づき、児童等の発育状態（身長、体重）及び健康状態（疾病・異常の有無）を調査。

(3) 調査期日：令和4年4月1日から令和5年3月31日の間に実施。

2. 新型コロナウイルス感染症の影響に伴う対応

令和4年度については、令和3年度に引き続き、新型コロナウイルス感染症の影響により、例年4月1日から6月30日に実施される健康診断について当該年度末までに実施することとなったため、学校保健統計調査においても調査期間を年度末まで延長しました。

このため、本集計結果は、成長の著しい時期において測定時期を異にしたデータを集計したものとなっており、過去の数値と単純比較することはできません。

3. 調査結果

主な結果は別添「調査結果のポイント」のとおり。

なお、詳細な集計表は「政府統計の総合窓口（e-Stat）」に掲載しています。

(<https://www.e-stat.go.jp/stat-search/files?page=1&toukei=00400002&tstat=000001011648>)

4. 今後の施策の対応方針

各調査項目について、令和4年度の健康診断が必ずしも6月30日までに実施されていないため、令和元年度以前の数値と単純比較はできないものの、例えば、むし歯（う歯）の割合については、すべての学校種で過去最低値でした。引き続き、歯科保健の充実に取り組むとともに、子供の健康状態についても継続的に把握することを予定しています。

<担当>総合教育政策局調査企画課

課長 枝 慶

分析調査官 宇野 貴雄

専門調査係 川並 ひとみ

電話：03-5253-4111（代表）内線：3240・2262

令和4年度学校保健統計 調査結果のポイント

【健康状態調査】

- (1) 裸眼視力1.0未満の者の割合は、学校段階が進むにつれて高くなっており、小学校で3割を超えて、中学校では約6割、高等学校では約7割となっている。
- (2) むし歯（う歯）の者の割合は、小学校・高等学校で4割以下、幼稚園・中学校では3割以下となっている。
- (3) 鼻・副鼻腔疾患の者の割合は、小学校・中学校で1割程度となっている。

※なお、いずれの項目も調査時期の影響が含まれるため、令和2年度、令和3年度に引き続き令和4年度の数値についても、令和元年度までの数値と単純な比較はできない。

○主な疾病・異常等の推移

区分	（%）										
	裸眼視力1.0未満の者	眼の疾病・異常	耳の疾患	鼻・副鼻腔疾患	むし歯（う歯）	四肢の柱の状態（胸部・注2）	アトピー性皮膚炎	ぜん息	心電図異常（注1）	蛋白検出の者	
幼稚園	平成24年度	27.52	1.83	2.60	3.50	42.86	(0.18)	2.88	2.33	...	0.58
	29	24.48	1.60	2.25	2.86	35.45	0.16	2.09	1.80	...	0.97
	30	26.68	1.55	2.31	2.91	35.10	0.23	2.04	1.56	...	1.03
	令和元	26.06	1.92	2.57	3.21	31.16	0.16	2.31	1.83	...	1.02
	2	27.90	1.36	1.97	2.38	30.34	0.35	1.90	1.64	...	1.00
小学校	平成24年度	30.68	5.44	5.39	12.19	55.76	(0.36)	3.25	4.22	2.30	0.75
	29	32.46	5.68	6.24	12.84	47.06	1.16	3.26	3.87	2.39	0.87
	30	34.10	5.70	6.47	13.04	45.30	1.14	3.40	3.51	2.40	0.80
	令和元	34.57	5.60	6.32	11.81	44.82	1.13	3.33	3.37	2.42	1.03
	2	37.52	4.78	6.14	11.02	40.21	0.94	3.18	3.31	2.52	0.93
中学校	平成24年度	54.38	4.67	3.62	11.39	45.67	(0.80)	2.47	2.95	3.32	2.50
	29	56.33	5.66	4.48	11.27	37.32	2.41	2.66	2.71	3.40	3.18
	30	56.04	4.87	4.72	10.99	35.41	2.40	2.85	2.71	3.27	2.91
	令和元	57.47	5.38	4.71	12.10	34.00	2.12	2.87	2.60	3.27	3.35
	2	58.29	4.66	5.01	10.21	32.16	1.65	2.86	2.59	3.33	3.25
高等学校	平成24年度	64.47	3.70	1.88	8.63	57.60	(0.62)	2.07	1.91	3.02	2.67
	29	62.30	3.54	2.59	8.61	47.30	1.49	2.27	1.91	3.27	3.52
	30	67.23	3.94	2.45	9.85	45.36	1.40	2.58	1.78	3.34	2.94
	令和元	67.64	3.69	2.87	9.92	43.68	1.69	2.44	1.79	3.27	3.40
	2	63.17	3.56	2.47	6.88	41.66	1.19	2.44	1.75	3.30	3.19
3	70.81	3.35	2.51	8.81	39.77	1.22	2.58	1.70	3.16	2.80	
4	71.56	3.58	2.25	8.51	38.30	1.12	2.68	1.71	3.03	2.83	

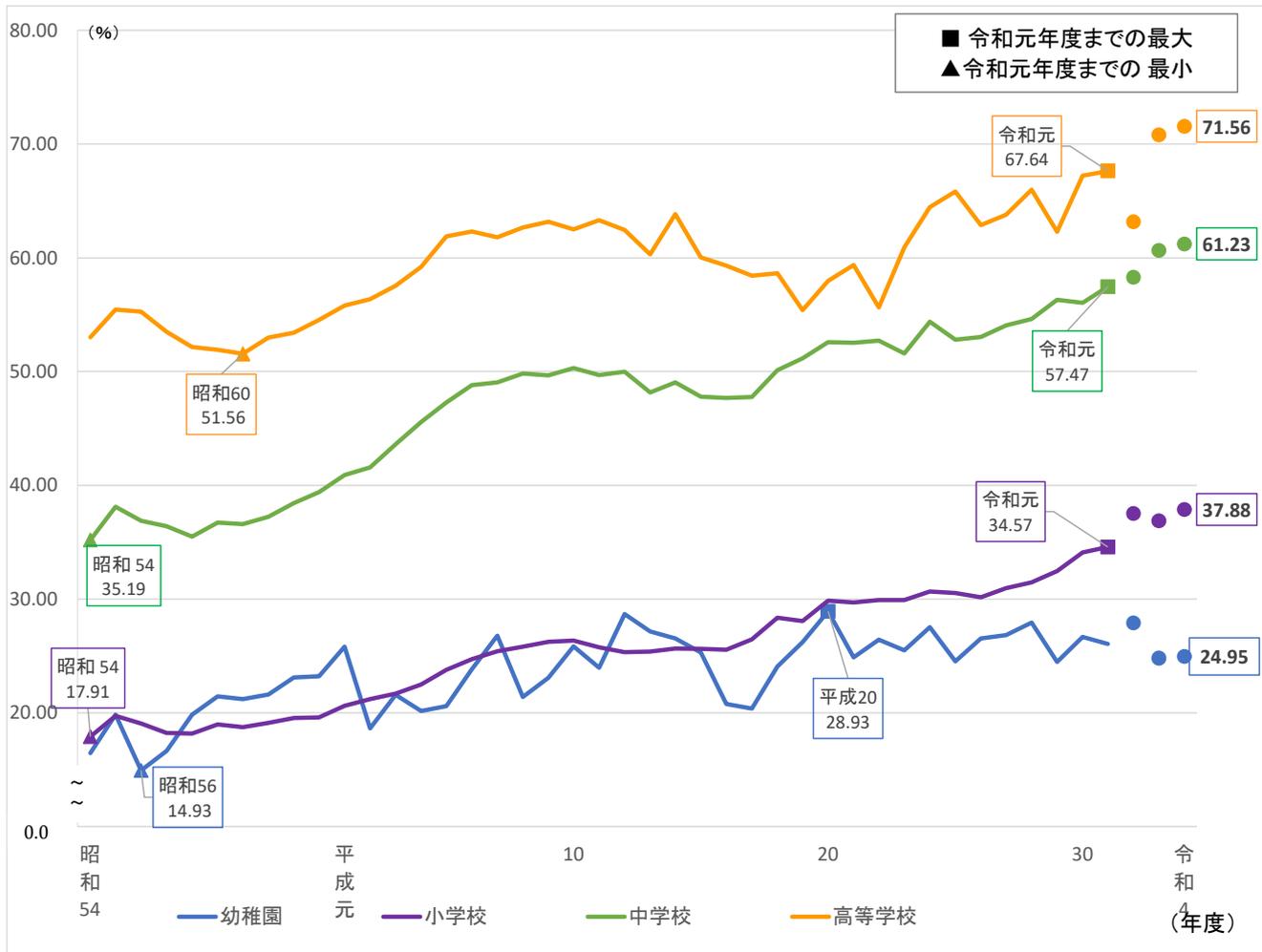
注1：「心電図異常」については、6歳、12歳及び15歳のみ調査を実施している。

注2：「せき柱・胸部・四肢の状態」については平成27年度までは「せき柱・胸部」のみを調査。

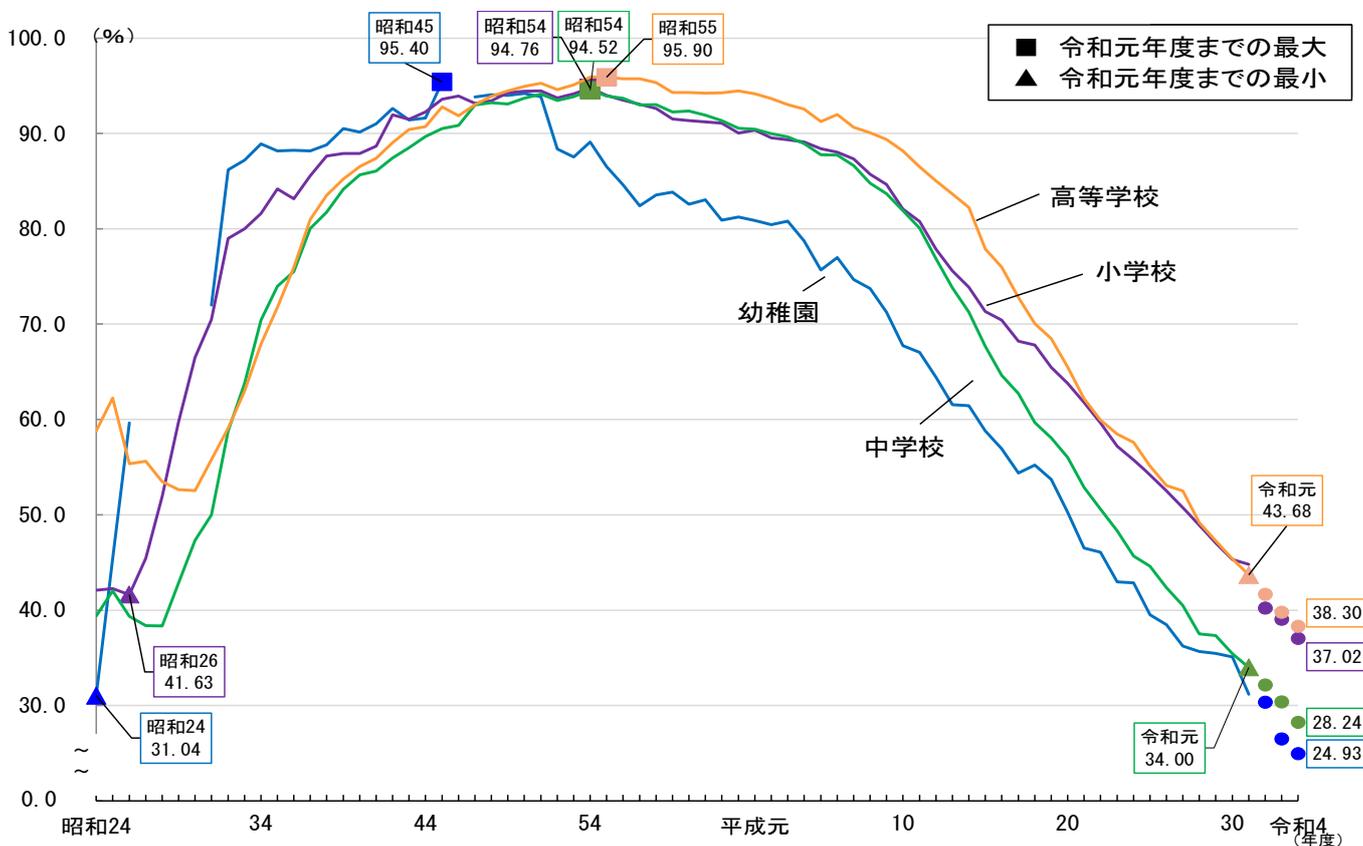
■：過去最大(令和元年度までの値の比較)

■：過去最小(令和元年度までの値の比較)

○「裸眼視力1.0未満の者」の割合



○むし歯（う歯）の者の割合



注: 幼稚園については、昭和27～30年度及び昭和46年度は調査していない。

【発育状態調査】

- (1) 身長の平均値は、ほとんどの年齢層で平成13年度頃まで上昇し、その後横ばい傾向。
- (2) 体重の平均値は、ほとんどの年齢層で平成18年度頃まで上昇し、その後横ばい傾向。
- (3) 肥満傾向児の割合は男女ともに小学校高学年が最も高く、特に男子は8歳以降1割を超えている。
 痩身傾向児の割合は、男女とも10歳以降は約2%～3%台となっている。

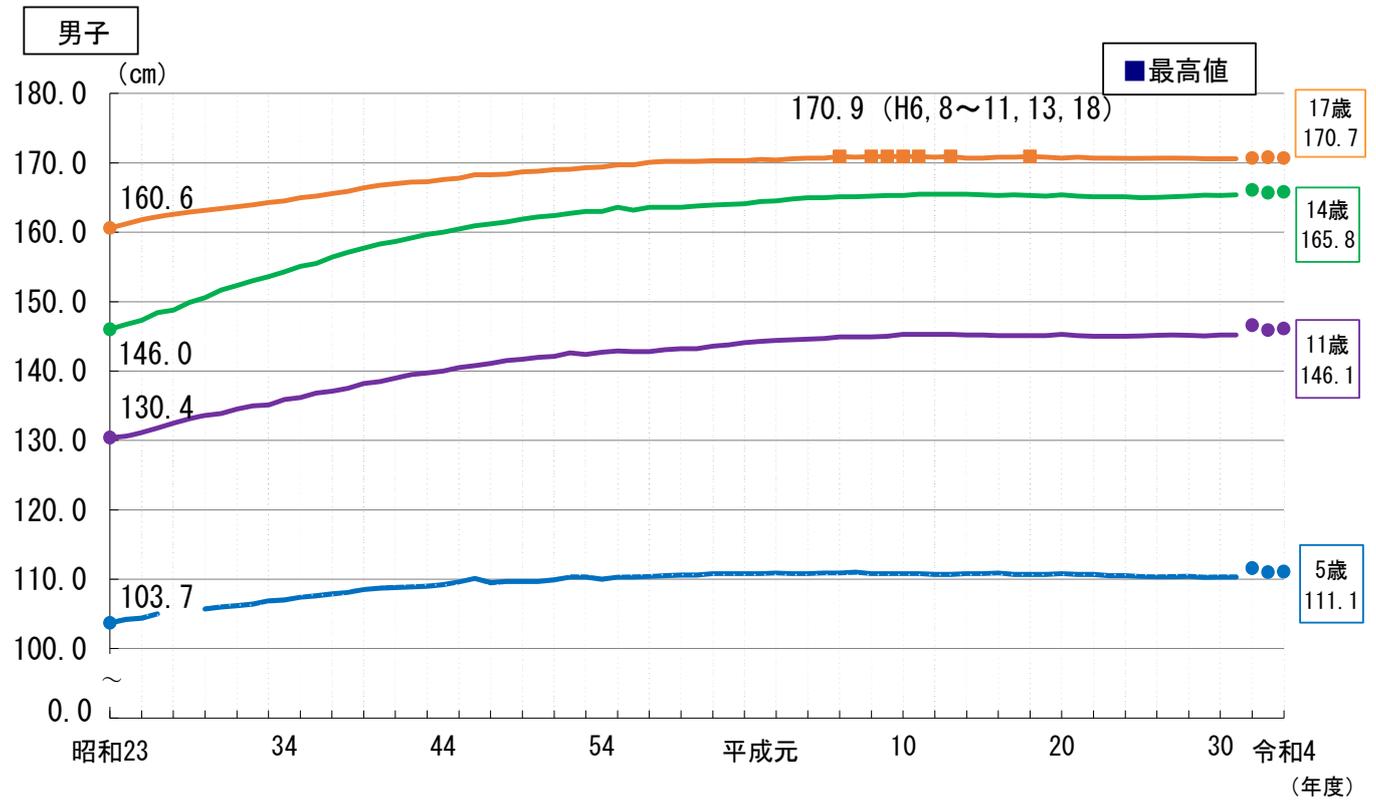
※なお、いずれの項目も調査時期の影響が含まれるため、令和2年度、令和3年度に引き続き令和4年度の数値についても、令和元年度までの数値と単純な比較はできない。

○令和4年度 身長・体重の平均値及び肥満傾向児及び痩身傾向児の割合

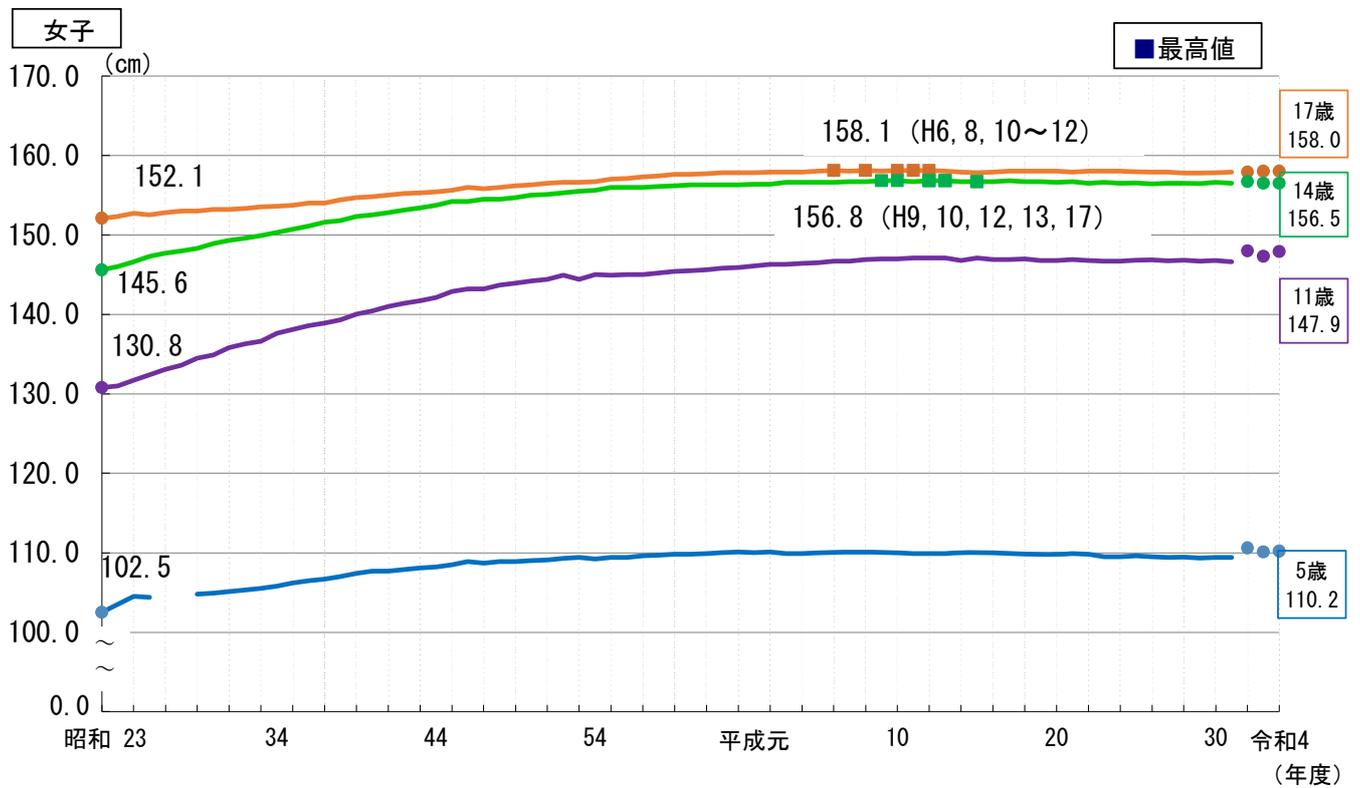
		(cm)	(kg)	(%)	(%)	
区 分		身長	体重	肥満傾向児	痩身傾向児	
男子	幼稚園	5 歳	111.1	19.3	3.56	0.15
		6 歳	117.0	21.8	5.74	0.28
		7	122.9	24.6	8.02	0.41
	小学校	8	128.5	28.0	11.14	0.58
		9	133.9	31.5	13.17	1.41
		10	139.7	35.7	15.11	2.36
		11	146.1	40.0	13.95	2.91
	中学校	12 歳	154.0	45.7	13.27	3.21
		13	160.9	50.6	12.25	2.59
		14	165.8	55.0	11.31	2.87
	高等学校	15 歳	168.6	59.1	12.51	4.43
		16	169.9	60.7	11.13	3.71
		17	170.7	62.5	11.42	3.32
	女子	幼稚園	5 歳	110.2	19.0	3.73
6 歳			116.0	21.3	5.50	0.44
7			122.0	24.0	7.23	0.46
小学校		8	128.1	27.3	9.07	1.01
		9	134.5	31.1	9.57	1.87
		10	141.4	35.5	9.74	2.53
		11	147.9	40.5	10.47	2.40
中学校		12 歳	152.2	44.5	9.51	3.85
		13	154.9	47.7	9.05	3.28
		14	156.5	49.9	7.71	3.09
高等学校		15 歳	157.2	51.2	7.68	3.13
		16	157.7	52.1	6.98	2.94
		17	158.0	52.5	7.45	2.38

注：年齢は、4月1日現在の満年齢である。以下の各表において同じ。

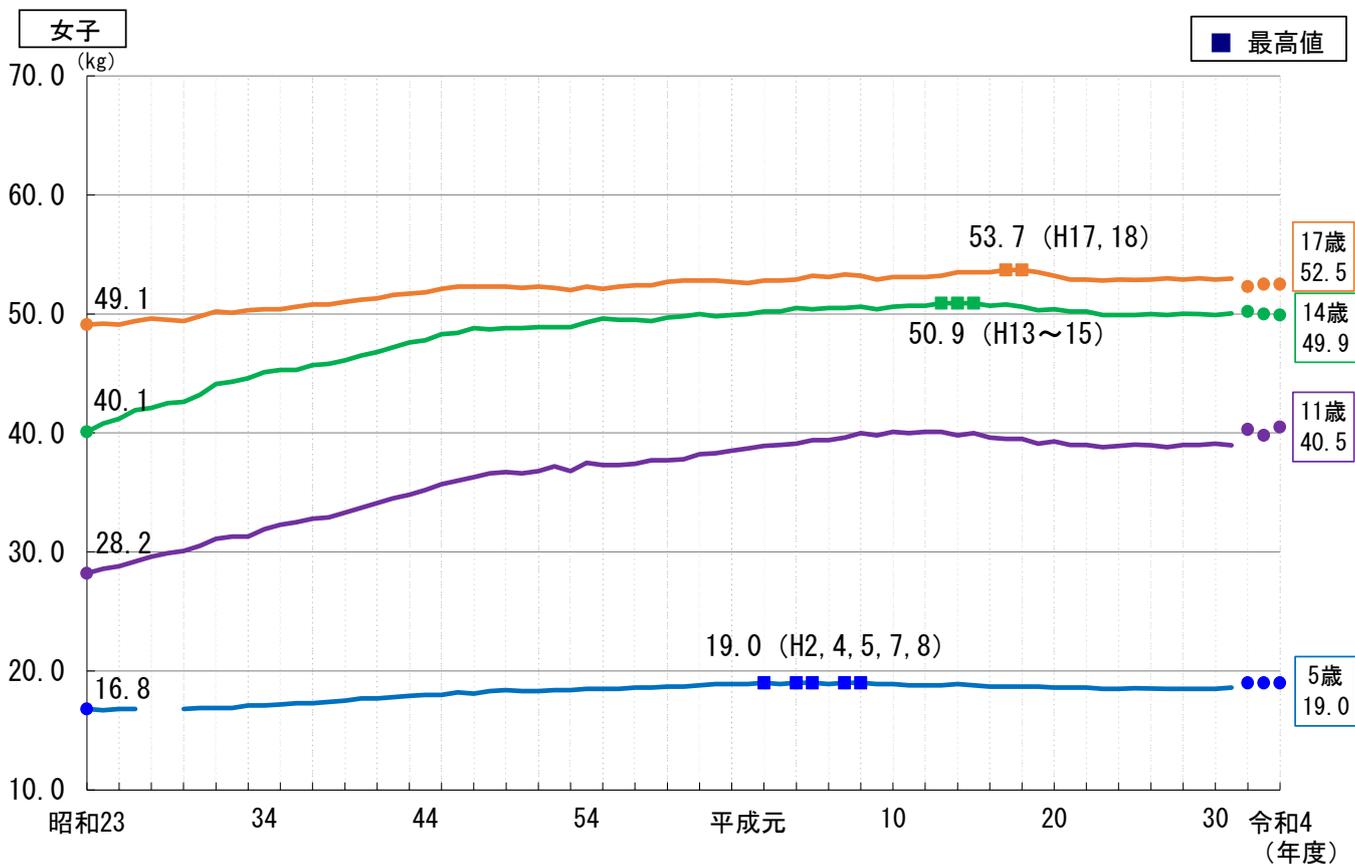
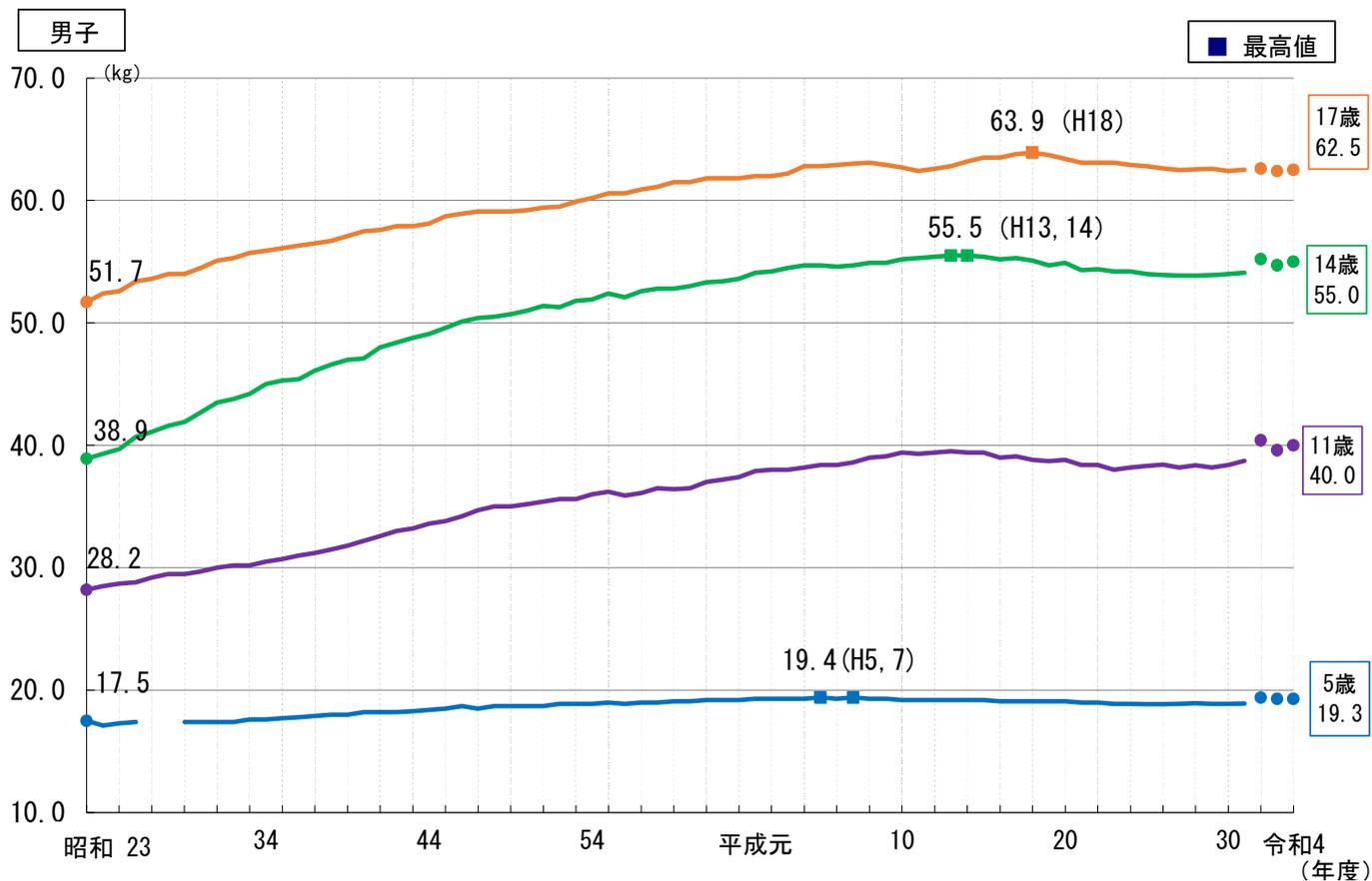
○身長の推移



(注)5歳については、昭和27年度及び昭和28年度は、調査していない。4ページ、5ページの各図において同じ。



○体重の推移

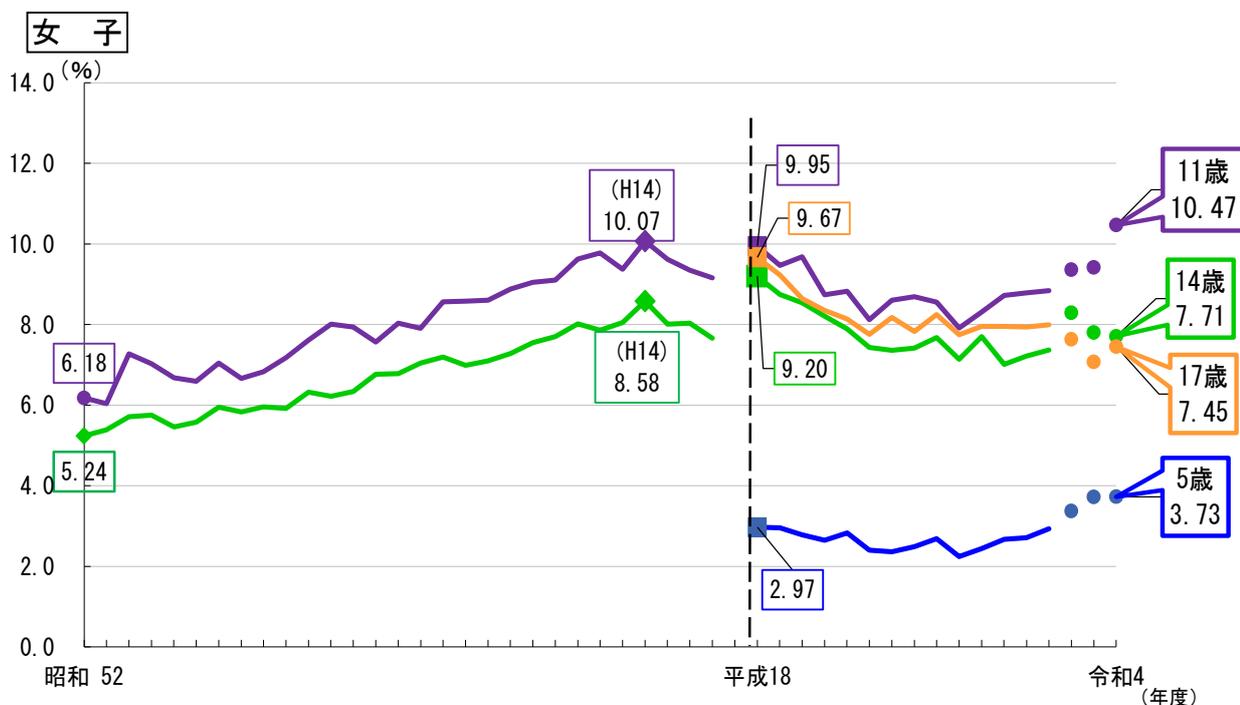
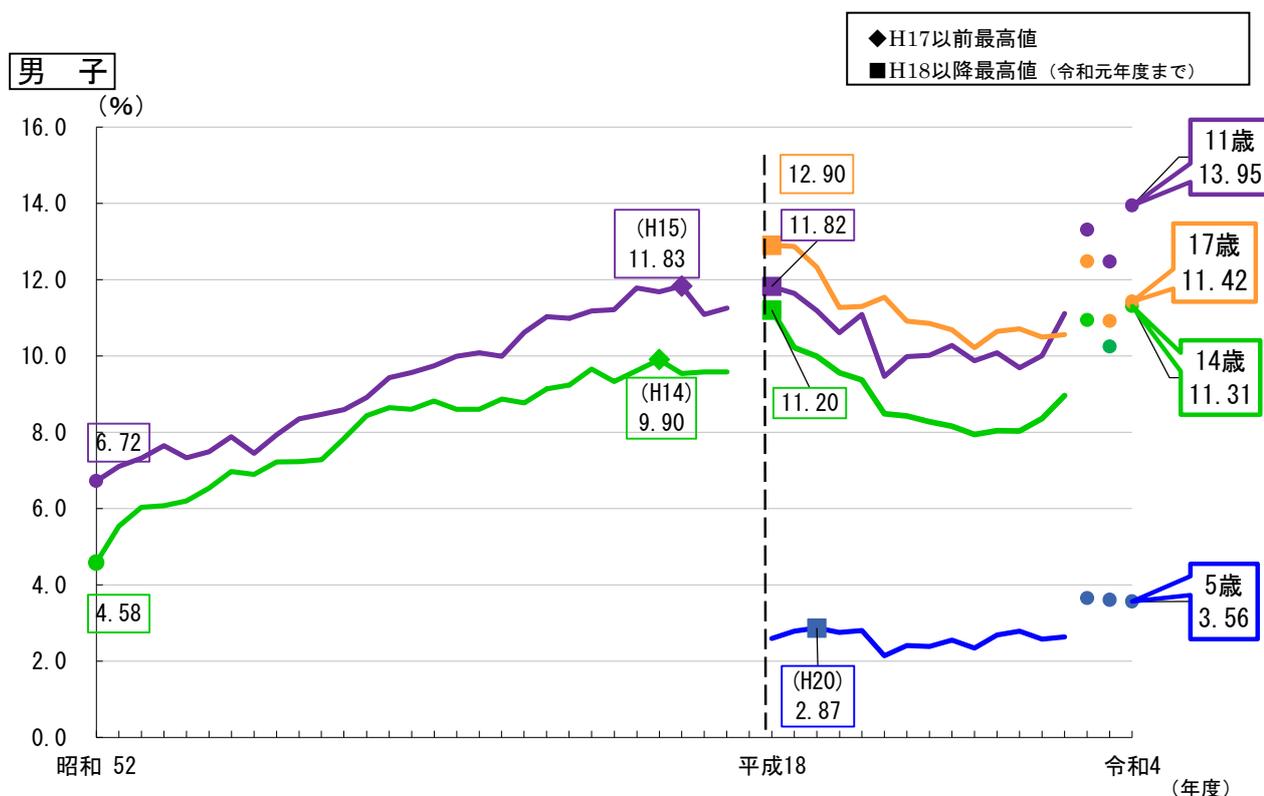


○肥満傾向児の割合の推移

性別・年齢別・身長別標準体重から以下の算出式により、肥満度が20%以上の者を肥満傾向児、
-20%以下の者を痩身傾向児としている。

$$\text{肥満度・痩身度} = [\text{実測体重 (kg)} - \text{身長別標準体重 (kg)}] / \text{身長別標準体重 (kg)} \times 100 (\%)$$

※例えば、11歳男子の肥満傾向児の全国平均値13.95%とは、肥満度20%以上の者の割合が11歳男子児童全体の13.95%であることを意味している。



(注) 1. 平成18年度から肥満・痩身傾向児の算出方法を変更しているため、平成17年度までの数値と単純な比較はできない。

2. 5歳及び17歳は、平成18年度から調査を実施している。次の図においても同じ。

○痩身傾向児の割合の推移

